

No.19

平成 26 年 9 月

發行 守山市民生委員暨童委員協議會

事務局 守山市社会福祉協議会
住所 守山市下之郷三丁目2番5号
T E L 077-583-2923

《平成26年 県外研修報告》

国立ハンセン病療養所 「長島愛生園」を訪問して

6月19日(水)、民生委員児童委員120余名が訪問した長島愛生園は、1930年日本初の国立ハンセン病療養所として、岡山県東南部の瀬戸内に浮かぶ小島に設立されたものです。

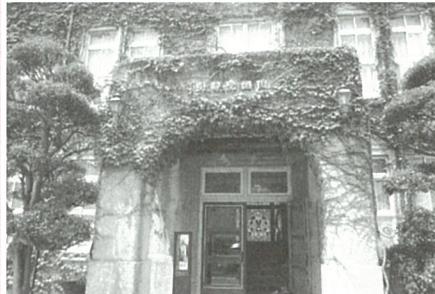
ハンセン病は、「らい菌」による細菌性感染症ですが、感染力はきわめて弱く特効薬プロミン等が開発されている現在は、完治できる病気です。

しかし、長年、感染力が強く遺伝性の病気との誤解があり、1996年に「らい予防法」が廃止されるまで、国によって強制隔離政策がとられ、入所者は、家族との縁を絶たれ、改名を迫られる、結婚しても子どもを生むことを許されず、故郷の墓に埋葬してもらえない、また、その家族も就職や結婚などで厳しい差別を強いられてきたのです。

島内には、今も朽ち果てた収容棧橋、逃走者を収監した監房や消毒風呂が残り、当時の「療養所」の実態を垣間見ることができます。3,600余の遺骨の眠る納骨堂に案内されると、ご冥福を祈り、手を合わせずにはいられませんでした。

今夏、天皇・皇后両陛下は、宮城ご視察の折、国立ハンセン病療養所「東北新生園」を訪問され、46年かけ全14ヶ所の療養所の入所者との面会を果たされています。

国立療養所の入所者は、今なお2,000名を数え、平均年齢は83.6歳に達しております。ハンセン病問題を風化させない



ためには、国民一人ひとりが人権意識を高め、偏見や差別による苦しみを一人として味わうことのない人権尊重の社会づくりが求められていると言えます。

市民児協
副会長 淳上)

されておりますが、しかし実態は七十自治会のうち四十自治会で高齢化率が二十%を超え、そのうち十六自治会では三十%を越えております。また、守山市が災害の少ない都市であることは自他ともに認めるところですが、琵琶湖西岸断層帯を震源とする地震や最近政府よ

第二 向こう三軒両隣
地域のつながりや絆
を大切にしておく事。
まさかの時、国・県・市
からの救援の手が届くのに
は時間がかかります。

という言葉をよく耳にします。阪神・淡路大震災や東日本大震災、これら二回の貴重な経験から生まれた言葉といつても過言ではないと思います。

我々はこれらの経験から色々なことを学びました。

第一、日頃から個人の備えをしつかりしてお



『高齢化に思う

守山市自治連合会
会長 岩永



行政そして自治会・民生委員児童委員や地域の健康福祉部会の皆さんと一体となり、高齢者が安心して生活できる、そんな守山に出来ればと考えております。「住みやすさ日本」を目指します。

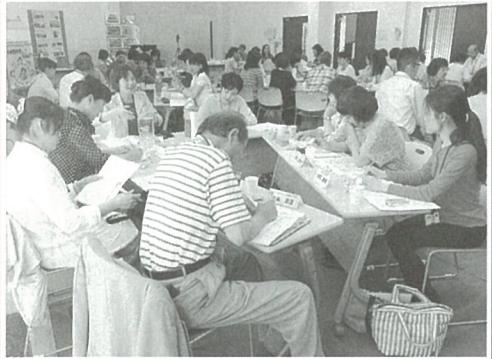
り被害想定の公表がなされた南海トラフ巨大地震などが危惧されております。まさかの時に本当に役立つのは地域の力です。

災害時要援護者の登録を徐々に完備されつつあります。各自治会では住民の交流行事を積極的に展開しておられます。

主任児童委員会報告

「湖南地域4市主任児童委員交流会」 守山市で開催

草津、栗東、野洲、守山4市の主任児童委員が集まって、各市の活動の情報交換をし、親睦を深める交流会を毎年開催しているが、今年は守山市が開催市となり、6月10日に生涯学習センター（エルセンター）で開催された。



午前中は4市の活動報告の後、今回のメインプログラムである「ジェリービーンズ&四つ葉のクローバー」のコンサートがあった。「ジェリービーンズ」は滋賀県を中心に活動する元不登校児バンドで、不登校だった過去の経験を語りながらの演奏には涙して聞いている人も多かった。不登校児の生の声を聴くことや、不登校を乗り越えて元気に活動する3人の姿を見ることは貴重な体験となった。



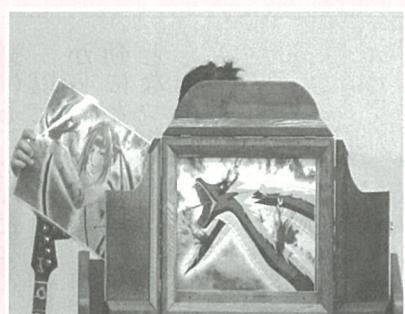
またコンサートの中で、社会的養護の必要な若者のために守山市に設立された自立支援施設「四つ葉のクローバー」の紹介があった。

グループに分かれての昼食の後は情報交換会となり、各市での活動内容やそこでの悩みや問題点

を話し合い、お互いに自分たちの活動を見直すいい機会となった。

最後に勝部の火祭りの紙芝居をして、火祭りのたいまつの残り木で守山市の主任児童委員さんが作った「お守りストラップ」を全員に記念品として配った。「ジェリービーンズ」という主任児童委員の活動と関係の深いバンド演奏や、伝統文化の勝部の火祭りの紹介など、ユニークで内容の濃い交流会となった。

（主任児童委員会
代表 畠中 杉）



編集後記

厚生労働省が、7月31日に、昨年の日本人の平均寿命を公表しました。男性は80.21歳、女性は86.61歳、男性は集計を始めて以来初めて80歳台に達し、女性も過去最高を更新し、2年連続の「世界一」となりました。一方、生活困窮者、介護の必要な方も増えていくと予想されます。

地域住民のみなさまが、明るく生活していくよう、民生委員児童委員の役割が重要となり、責任を痛感しています。

（守山学区 川本記）

お一人暮らし
高齢者の方へ

救急時・災害時の備えとして… 救急医療情報キット(暮らしの安心メモ・命のバトン)の設置をすすめます！ 《平成26年7月より配布スタート》



こんな時に使います…

○「命のバトン」は、急病や災害などの時、救急隊員が適切な対応を速やかにとることができるように設置するものです。箇所の中には医療情報シートの他、保険証の写しやお薬手帳の写しなどを入れ、冷蔵庫の中で保管します。

○「暮らしの安心メモ」は、日常の暮らしの中でもしもの時にご本人さんが活用いただくものです。電話口などにかけてご利用ください。

今回の配布の対象は民生委員児童委員が日頃見守りを行っている、65歳以上のお一人暮らしの方です。7月より担当の民生委員がご家庭を訪問して設置の呼び掛けをしていますので皆さまのご理解とご協力をお願いします。

